

「チェーンソーって重たいんだね」

職員が小学校で林業の授業



職員、子どもたちの双方が学んだ授業

八幡町にある市立八幡小学校では、児童の保護者が講師となつて授業を行う「学校ボランティア」を実施しています。

三月二十二日（月）、この学校の児童の保護者でもある本組合の職員が鮮やかなオレンジ色の作業着を身にまとい、五年生を対象に森林や林業について授業を行いました。

授業では、森林が木を育てる場所だけでなく、土砂崩れや地球温暖化にも役立っていること、そして、その森林を守るのが林業であることが伝えられました。

チェーンソーに触れる体験では、その重さに「チェーンソーって、こんなに重いんだ」と驚きの声が上がりました。

この驚きや体験が、森林や林業への理解を深めてくれることでしょう。

伐倒練習機を使い、 屋内で伐倒の腕を磨く 伐倒技術研修会を開催



普段とは違う環境での伐倒に多少とまどい気味

林業は、他産業と比べ労働災害の発生件数が多く、特に木の伐倒時の被災割合が高くなっています。いかに伐倒技術を高めるかは、安全の確保だけでなく作業効率向上のための重要な課題です。

三月十六日、組合では職員の伐倒技術向上のため、県立農林大学校を会場に伐倒技術研修会を開催。森林整備課職員十三名が「伐倒練習機」を用いた研修を受講しました。

「伐倒練習機」は、天候に左右されず、危険性も軽減しながら、屋内で正しい伐倒技術が習得できるよう、群馬県が令和二年度に導入した機械で、傾斜角の変えられる基礎に、実際の樹木のように丸太を立てて固定し、受講生がチェーンソーを使って伐倒するというもの。

自信をもって臨んだものの、伐倒方向が予測から大きくずれたり、切断面が傾いていたなどに一喜一憂し、自らの癖を把握、矯正しながら腕を磨きました。